

矢作川流域圏懇談会通信

R6 市民部会編 vol.3



発行日：令和6年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第6回市民部会まとめの会を開催しました！

第6回市民部会まとめの会では第14期の振り返りと第15期の活動目標について話し合いました。

日時：令和6年10月29日（火）15:00～17:30

会議場所：豊田市崇化館交流館 第2会議室

参加者：13名 ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 第14期の振り返り

第14期の活動として下記に示す①～③を報告しました。

①第4回公開講座 「川がつなぐ 私たちの未来～知らなかった山・川・里・海の繋がり～」

2024年2月12日に開催し、「流域」の概念を市民に伝えることが市民部会の開催する公開講座の役割として重要であるという議論から俯瞰的に捉えた流域の解説を公開講座で行いました。

②地域部会合同のバスツアー

2023年9月13、14日に地域部会間の共通認識の隔たりを補完することを目的に他部会に紹介したい矢作川流域の団体や場所を巡るバスツアーを開催した。延べ32の方が参加しました。

③新たなつながり

2024矢作川感謝祭では流域内の食材を使用したおにぎりや他団体の方と協力してジビエソーセージ、旬の野菜、ビール、アイス等の販売や東幡豆漁協の石川組合長による海の生き物水族館を出展しました。三河湾大感謝祭では海苔の食べ比べ等や石川組合長による海の生き物パネルを展示しました。様々な団体と共働し、流域内の市民の方にも理解しやすい「食」をきっかけに矢作川流域圏懇談会の活動内容や流域の課題を知っていただきました。

2. 第15期の活動目標

流域連携をテーマに3つの活動目標【食と農業】、【地域部会と連携】、【新たなつながり】を設定しました。

◆テーマ①食と農業

- ・ 食と農業に関する情報共有や活動を目的とした機動性のあるチームを作成し、その内容をWGで情報共有・意見交換する。
- ・ 流域市民の方への発信として公開講座を検討する。

◆テーマ②地域部会と連携

- ・ 地域部会と連携して流域の課題を流域市民の方に知っていただく機会を設ける。
- ・ 矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の課題を流域市民の方に発信していくために地域部会と連携して「農業」「海の現状・課題」をテーマとしたイベントを開催する。

◆テーマ③新たなつながり

- ・ 矢作川流域圏懇談会のネットワークを活用して流域内外で新たなつながりを広げる。
- ・ 流域圏懇談会の活動と関連する団体・個人への訪問・招待やイベント参加などを引き続き行っていく。（矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭等）
- ・ 流域内の外部団体と連携を強化していき、流域のことを知っていただく場を設けて大学や市民の方も巻き込んでいく。



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●第14期の振り返り

- ・第14期の活動として主に公開講座、バスツアー、例年とは違った取り組みをした2024矢作川感謝祭や第11回三河湾大感謝祭および新たなつながりについて報告した。（事務局）
- ・今期の途中から市民部会座長に着任した鈴木座長の取組により矢作川感謝祭や三河湾大感謝祭を通じて市民の方に矢作川流域圏懇談会や流域の課題を知っていただいた。今までとは違った交流となり、流域をつなぐイベントになったと考える。地域の祭りやイベント等に積極的に参加し、矢作川流域圏懇談会の活動内容や流域の課題を説明していくことが新たな方針になるのではないかと。（沖）

●第15期の活動目標

- ・海部会から市民部会と協働して市民を対象にしたイベントを実施したいという話があった。（事務局）
 - ▶海部会まとめの会では「漁業関係者は漁獲量が減少している影響で明日もどうなるか分からない状況である」と鈴木海部会副座長が言っていた。市民部会としてもこれに協力し、海の現状を市民の方に知っていただくツアーを開催したいと考えている。（鈴木）
- ・降った雨をどれだけ浸透させて湧水させるかが流域治水につながる。近年は湧水が地下水か河川から来たのか分かるようになった。どのように流域内に降った雨を地下に入れて湧水させるかを考えたい。（井上）
- ・岡崎市はオーガニックシティーに名乗りを上げているため、生産者の方をWGに呼んで話し合うことができれば良いと考える。（沖）
- ・人間の影響で里海も里山も崩壊している。それには様々な影響が考えられるが対策として全国一律で単一のやり方をやっても効果は低いと考える。実際には地域ごとに異なる課題があり、地域で考える必要がある。人々が食べていけるような生態系を地域で回復していく必要がある。公開講座等で生態系の話等はあるのか。（山本）
 - ▶ミライ会議で流域と水道に関する公開講座を予定している。また、市民部会で食や農業に関する話も予定している。（近藤）
 - ▶食や農業に関する公開講座はいつ頃を予定しているか（藤永）
 - ▶1つの目標としては第15期中に開催できれば良いと考えるが主メンバーの都合の良い時期で問題ない。（近藤）
- ・バスツアーについては無理に毎年やる必要はないと考える。バスツアーに参加してくださる方は懇談会メンバーが多いため地域の方々に参加していただくためには何か手段を考える必要がある。（近藤）
 - ▶海部会と市民部会の協働イベントでバス等の活用も考えられる。（高橋）
 - ▶バスツアーは市民をターゲットとしたい。（鈴木）
 - ▶豊田市で発行しているミライ塾等のイベントを掲載している広告等も活用することでより広まると思う。（藤永）
 - ▶これまでは目的があって、その手段としてバスツアーを実施した。今後は市民の方をターゲットにするためにバスツアーも含めて手段を考える必要がある。（光岡）
- ・市民部会が全て見る必要はなく、地域部会と協力するのが良いのではないかと。（山本）
 - ▶矢作川流域圏懇談会の強みは「つながり」である。それを活用して市民部会が地域部会に横串を刺していく必要がある。懇談会メンバーのつながりを活用して流域内外の他団体とも交流していくことが重要と考える。交流をきっかけに地域部会へのつながりにもなると考える。（近藤）
- ・農業に関する話は年2回程度のWGでは話がまとまらないと考えられる。鈴木さんを中心にチームを作り、方向性を検討してはどうか。（近藤）
 - ▶チームを作り、WG等で検討結果を発表する形とする。来期だけで解決する問題ではないので継続し、少しでも多くの流域内の方に知っていただきたいと考える。（鈴木）
- ・今年の矢作川感謝祭はとても良かったと感じる。矢作川流域圏懇談会全体で来期も様々な団体と交流していければ良いと考える。（山本）
- ・三河湾大感謝祭はあらゆる海の関係者が集まるため、市民部会としても重要なイベントである。（近藤）
- ・本日の話を整理するとテーマとしては新たに「食と農業」、「地域部会との連携」、と昨期から継続して「新たなつながり」とする方針とする。（鈴木）

●その他

- ・第14期・第15期のイベントとして11月30日に多摩川流域セミナー、12月17日に山部会座長の蔵治先生、名古屋工業大学の菅場先生、自然共生研究センター長の森氏を中心とした鼎談を予定している。また、全体会議の開催は11月26日である。（事務局）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

